

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム しらかば	評価実施年月日	平成19年9月11日
評価実施構成員氏名	・松本 敬子 ・伊藤 ちづ子 ・高橋 和江 ・寺田 敏子 ・横内 美咲 ・秋山 千鶴 ・芳賀 志寿 ・糸 尚美 ・川辺 真澄		
記録者氏名	糸 尚美	記録年月日	平成19年9月11日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	・ホーム理念、ケア理念もあり、地域の一人として受け入れてもらえるよう、地域活動に参加する努力をしている。	○ 今後運営推進会議を定期的開催しグループホームの理解と地域密着のサービスを実施していきたい。
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	・スタッフルーム、玄関ホールが目につく所に掲示しており、出退時に個々に確認、実践に至っている。	・出勤時に理念を確認、退勤時に仕事の振り返りに確認している。理念の実践に向けて申し送り、カンファレンスで全員で共有して取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	・家族への説明は十分にしている。地域の活動へ参加し説明を行なっている。 ・玄関ホールに理念を掲示して家族や地域の方が出入りして目につく場所に掲示して説明しています。	・当ユニットは家族面会が多く、理念を見る機会が多い。地域の行事に参加してPRしている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	・近所の方も気軽に遊びに来られ、又散歩中の方にも声を掛け合っている。	・気軽に立ち寄ってもらえるホーム作りを継続。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・カラオケ同好会に参加しているが今後は色々な活動に参加したい。 ・ホームにカラオケ同好会の慰問があり交流に努めている。	・町内会のカラオケ同好会や演芸会に参加している。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	・公園までの散歩をしながらゴミ拾いをしている程度である。	○ 今後は地域に高齢者の方が住んでいるので認知症の相談を気軽に出来るように地域と繋がりを深くしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	・意義を理解している。常日頃改善に取り組んでいる。		・改善策は年間の目標としている。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・利用者やサービスの実際を評価への取り組み状況を説明、報告し意見をサービスに活かすようにしている。		・今回の評価結果、取り組みについて、運営推進会議で報告し、意見をいただきサービスの向上に努める。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	・十分にできていないが、困りごとがあると相談しアドバイスをもらってサービスの質の向上に取り組む努力をしている。		・入居者の困難事例や対応について相談しアドバイスをもらいサービス向上に努めることが出来るように継続したい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	・今年1月に対象者がいたので学ぶことが出来ましたが、活用できなかった。・今後必要な時には活用できるように支援したい。		・対象になる方がいましたが、活用する事が出来なかったが今後必要性に応じて活用したい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがない要注意を払い、防止に努めている。	・研修に参加し、スタッフ全員が学べるように報告会を実施している。スタッフの日常の対応の仕方を申し送り時に振り返れるよう話し合いの場を設けている。		・自分自身のケアのあり方を振り返れるように話し合い、対応が逆効果の時等も話し合っている。職員間でもお互いに警告し合える環境である。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・必ず一つ一つ説明し、理解、納得し、不安や疑問点も尋ねている。解約時も本人や家族が理解、納得を得られている。		・誤解されたことがトラブルにならないように説明したことの再確認はしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>・利用者は管理者や職員へ苦情を言える状態になっている。家族や面会者に話している。的確な意見は職員に注意し改善している。</p>		<p>・今まで同様に継続</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>・面会時、暮らしぶりや健康状態を報告している。状態によっては電話連絡している。 ・金銭管理は月に1回明細を送付したり直接渡している。 ・職員の移動は機関紙で報告している。</p>		<p>・家族面会時に報告、電話は継続。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>・面会時に話せる時間を設けている。苦情箱も設置しているが、行政機関の紹介もしている。 ・直接家族から意見がある時は職員で話し合い改善している。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>・管理者は運営者に職員の声を届けているが反映されていない。</p>		<p>・すぐに対応して頂ける様に運営者をお願いしていきたい。(休憩室等)</p>
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>・要介護度が高い利用者が多いためスタッフを多く配置する事が出来ない事が多く、時間延長で対応している。利用者や家族の希望に応じたいが出来ない事が多い。</p>		<p>・対応できるように改善していきたい。</p>
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>・今まで2名の移動があったが、利用者は認知しておらずダメージは一切ない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・管理者は研修に参加させたいが運営者は人数制限をする為参加する人が限られている。		・地域での研修を主体的に開催し出来る限り参加している。市外での研修は参加できない。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・他の事業所の研修会の参加。又、研修会を主催する等同業者と交流する機会を持ちサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		・他事業所から研修会開催を待ち望んでいるので早目に開催したい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	・運営者は職員のストレスを理解していない。管理者は職員のストレスを軽減するための意思表示が日頃からできるようにしている。		・運営者との話し合いを設けるべき。(休憩場所の設置)
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	・運営者は努力や実績を把握できていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・職員が本人の不安な気持ちを察知し個別対応する等安心感をもってもらう関係作りをしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・ホームに入居するにあたっての困っている事、不安な事や要望を聴き受け止めるように努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・相談に見えた時、在宅での生活が可能であれば、他のサービスを利用のアドバイスをしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	・ホーム見学はいつでも出来るように対応している。ホームの雰囲気を見てもらい半日入居者と過ごしてもらったりしてサービスを開始している。本人が入院等で退院後すぐに入居することもある。		・見学後、半日ホームで生活をしていただき、ホームの雰囲気が入居者に適しているか家族、本人に判断していただく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	・日常生活では、掃除、洗濯、食後の後片づけ、調理、買い物等職員と一緒に参加していただき本人の得意分野から学ぶ事も多く、支えあう関係を日々取り組んでいる。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・家族との交流は、行事や面会時に喜怒哀楽を共にし、良い関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	・行事の写真を見ていただいたり、手紙を書いて送り、返事が来たり、面会時良い関係を築いている。		・外出や外泊時の支援をしている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・電話は気軽にかけられる様に、外出希望時は家族に対応してもらったり、ホームで対応している。		・家族の方にも協力してもらい、馴染みの人や場所にいける様に支援しているので継続していく。本人も満足されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・認知症軽度の方は、お互い関わり支えあっている。 ・重度の方は職員が孤立しないように取り持ち、孤立感を抱かせないような関わりを持っている。		・利用者同士、トラブルのないように良い関係作りをしていきたい。病院から退院してベッド上安静臥必要な入居者がいる時は皆で居室訪問をして歌を歌って励ましている。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	・退居後、面会に行ったり家族に電話で様子を聞いたりしてつきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・判断の出来る方は、希望や意向を聞き、困難な方は家族に希望や意向を聞き本人本位に検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入居前、家族や本人から情報収集している。独居の場合は困難である。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	・日常生活を共に過ごしている職員が把握し、一人一人の生活記録でも把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・本人の意見を聞き、職員の日頃の関わりあいの中で把握、家族と話し合って作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・病院から退院してくる場合や変化があった時は会議を開き、本人、家族と話し合い新たに計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	・毎日の個別記録や申し送りを行情報を共有し実践や介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	・本人、家族の状況に応じて通院、送迎等柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	・本人の意向でボランティアと協力しながら支援している。消防署は防火訓練時の相談、指導してもらっている。警察にはホーム周辺で野花を摘みながら遠方まで出掛ける人がいるので写真持参してグループホームの説明等している。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	・以前他のサービスを受けていたがと自費となる為、家族から中止して欲しいと言われて現在利用している方はいない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	・本人の意向なく必要性がない為、協議していない。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	・、今までのかかりつけ、ホームの協力医療機関で相談しながら訪問看護を利用した事がある。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	・認知症の専門医に受診し、治療を受けている。認知症の進行状態を見ながら家族と話し合い受診している。医師に困っている事など気軽に相談している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	・看護職を確保している。かかりつけの医療機関や訪問看護ステーション等に気軽に相談し健康管理や医療活用の支援をしている。 ・信頼できる訪問看護ステーションに病気の事等気軽に相談している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	・入院時は情報交換し連絡を密にしている。面会にも度々行き落ちついた時点で早目に退院できるように病院と連携を図っている。 ・病状説明がある時は、家族と待ち合わせて主治医から説明を聞いている。 ・病院のケースワーカーや病棟の看護師長からも連絡が入るようにしている。リハビリしている方は、リハビリの進行状況を見学し理学療法士から説明を受けている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	・家族、病院と何度も繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	・担当医、かかりつけ医、家族、職員でチームとしての支援に取り組んでいる。今後の変化に備えて検討や準備を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>・家族や本人と話し合いを行い了解のもと情報提供しダメージを出来るだけ少なくする様になっている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>・一人一人に合わせた対応をしていて言動に細心の注意をしている。 ・記録物などの個人情報は鍵つきの書棚に保管し持ち出しが出来ないように徹底している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>・混乱しないように判りやすい言葉でゆっくりと話し自己決定している。出来ない方は表情などサインを見逃さないようにしている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>・その都度気持ちを聞き取り、入居者優先の生活になるように支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>・行きつけの床屋に希望があればすぐに対応している。 ・化粧やその人らしい身だしなみが出来るように支援している。化粧品を購入できる方は一緒に買い物している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>・入居者の身体状況を考慮し一人一人出来る事、出来ないことを職員が見極めて準備や片付けをしている。立ち仕事が困難な方は椅子に腰掛けて調理をしている。 ・食事は全員でテーブルを囲みながら食事をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	・お酒は、透析をしているため主治医から禁酒の指示があり飲んでいない。タバコを吸う方は現在いない。飲み物やおやつは楽しみにしているので希望を聞き提供している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・排泄パターンや動作や表情を見て排泄の支援をしている。本人の羞恥心も考慮し自尊心を傷つけないように配慮している。オムツを使用している方はなるべくオムツはずしをしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・入浴は透析通院の方以外は希望にあわせている。日中は午後2名体制の介助入浴と日中の希望者、就寝前に希望する方は夜の入浴で支援している。入居者同志、誘い合って入浴している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	・生活習慣を把握している。昼夜逆転しないように生活リズムを整え、夕食後、後片付け終了してから皆でテレビを見たり入浴してから就寝している。 ・不安があって眠れないと訴えた時は話を聴いて、時には添い寝をして安心して眠れる支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	・縫い物、畑、買い物での食材選び、調理、体操など一人一人が得意とするものを引き出したり、気晴らしに散歩の支援をしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・現金を持参している方は数名で、買い物で好きなものを購入している。(買い物を楽しみにしている)		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	・天気の良い日は、散歩や畑の前でベンチに座り周囲の景色を見たり、公園でブランコに乗る方もいる。外で体操や歌を歌ったり歩行困難な方も車椅子で戸外に出かける支援をしている。買い物にも出かける希望者が多く公用車の都合もあり人数を限定し交替で外出の支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたく普段はいけな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支援 している。	・食事、墓参り、温泉、花見など家族と一緒に出かけている。(入居時に説明してい るのでホームからお願いしなくても家族から自発的な申し入れによって外出してい る。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援し ている。	・手紙(絵手紙)、年賀状、電話で家族や知人とやり取りできるように支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している。	・就寝前までいつでも面会でき、仕事帰りに面会に来て顔を見て安心して帰る息子 さんもいる。又、一緒に食事やお茶を楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる。	・研修会に参加し、職員で勉強会もしているため理解している。 ・家族が希望してもきちんと説明をして身体拘束をしないケアをしている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・夜間防犯上、一階玄関は施錠している。独居で戸締りの習慣の方は居室の鍵を かけて就寝していたがホームは安全と認識されて鍵をかけないケアに取り組んで いる。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、 安全に配慮している。	・必ずホールには職員が見守り、居室にいる時も頻回に見守り安全に配慮してい る。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすの ではなく、一人ひとりの状態に応じて、 危険を防ぐ取り組みをしている。	・裁縫道具や果物包丁を持参し自己管理している入居者もいる。時々点検してい る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	・ヒヤリハット、事故報告書は職員で話し合い、対策を立て職員同志、常に声掛けをして事故が起こらないように取り組んでいる。消防署による火災を防ぐ知識も学んでいる。		
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	・マニュアルがあり応急手当を初期対応の勉強会を行い、事故発生時対応をしている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	・避難訓練は実施しているが地域の協力は得られない。	○	・今後運営推進会議などで協力を得られるように働きかけたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	・家族に説明し理解して頂くようにしている。入居後からホーム内外で起こりうる転倒や急病の説明、入居者の心身状態で可能性のあるリスクについて随時家族に説明し、本人と家族が少しでも安心できる生活を送れ自発的な自由な動きを阻害しないことを優先としている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	・毎日バイタルチェックを行なっている。 ・いつもと違う様子がみられた場合スタッフの五感を最大限に発揮し、異変の発見に努めすみやかに情報を共有しかかりつけ医に上申し医師から支持を仰ぎ対応をしている。 ・医師からの指示変更時随時、管理者より詳細な説明を行なっている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・管理者看護師の指示の元に服薬の支援をしている。臨時薬は申し送りにて徹底されている。職員が見やすいように薬の本を常備し、個人ファイルにも薬の用法が綴られいつでも確認できるようになっている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	・起床時、冷水や乳製品を摂っていただき体操や食物も繊維の多いものを取り入れ便秘予防に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	・毎食後口腔内の清潔支援をしている。 ・嚥下不良な方は誤嚥性肺炎予防のため食前にうがいをしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・食事量や水分摂取量のチェック表をつかって、個別の摂取状況を把握している。 ・栄養バランスは知り合いの栄養士さんに相談している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・インフルエンザの予防接種の励行、感染症に関する研修会の参加、マニュアルを作成し予防に努めている。 ・ノロウイルスは、ディスポの予防衣、手袋、新聞紙、拭き布、ゴミ袋、ブリーチ等一式をまとめて、すぐに使用できるように用意している。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	・生活の場である台所は、頻回に掃除を行いまな板や布巾等は除菌し衛生管理を徹底している。 ・食材は毎日新鮮な物を購入し新鮮な物を使用し、作り置きはしない事で徹底している。 ・台所に入ったら、職員、入居者は手洗いを励行し、常日頃から爪は短くしている。 ・冷凍冷蔵庫は掃除消毒の日を決めて行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	・玄関は帰宅願望の方が1階にいるので長時間戸を開けておけないがなるべく夏は開ける様になっている。畑の前にベンチを設置したり玄関前に花を飾っている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・花や装飾などで季節感を取り入れている。居間でのテレビや音楽の音に配慮している。 ・日光のまぶしさは、カーテンで防いでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・廊下にはボランティアの方が作ってくださった椅子があり、自由に仲の良い入居者同志くつろいでいる。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・入居前から使用していたタンスや椅子、箸、茶碗等使い慣れた物を使用している。仏壇や位牌を持参している方もいる。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	・24時間換気システム導入しているが、掃除やシーツ交換時窓を開けて換気している。・夏は窓を開けて風通しを良くしている。 ・冬場、玄関とユニット内の温度差がある。	○	・冬になると階段やエレベータ前は寒いので暖房の設置を運営者をお願いしていく事を継続。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・それなりに工夫はされているが、完璧とはいえない。 ・手摺りは居間や廊下、トイレ等に設置されている。 ・便座が高く足台を使用している		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	・混乱や失敗がないように表札でわかりやすく工夫している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	・畑や花壇前で、天気の良い日はバーベキューをしたり、体操、歌などで楽しんでいる。・ホーム前は砂利道のため入居者から歩きづらいと訴えがある。 ・車椅子利用者も2名いるので近くの公園や、散歩に難儀している。	○	・車椅子利用者もいるので舗装していただけるように市に相談している。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>③たまに</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>



V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 生活においてほぼ全ての事を介護職員、利用者と炊事、家事共に協力し合い行っており、又、ADLの低下されている利用者に対して、常に出来ることを探し自然体に生活しています。毎日の食事の献立も利用者と一緒に考えて食材購入も利用者を選んでもらい新鮮な物を美味しく食べています。生活の中で笑い声がありとてもアットホームです。